

カマ堰改修。クナール河は厳冬期で記録的に少ない水量とはいえ、やはり荒々しい大河だ。カマ第二堰。2017年12月11日



取水門付近の工事風景を対岸から見る。改めて投入した石材の量に目を見張る。2017年12月11日



石堰の良いのは、巨礫を再利用できることだ。撤去した石は溜めておき、堰再建に使う。ただし量が膨大で、皆が改めて驚く。カマ第二堰だけでダンプカー約2500台分の巨礫が使われている。斜め堰が鉄筋コンクリートより物量が少ない訳ではない。2017年12月10日



水門側壁の撤去。籠は二列で、外側の空石積み部分に変形、内側の列は背面のソイルセメントで練石積みのようになっていて、殆ど崩れはなかった。外側の列を撤去、内側列をモールドに見立て、厚い鉄筋コンクリート壁を造成する。2017年12月11日



堰造成のための最終測量と標識の設置。GPSは誤差が大きく、結局川に綱を渡して実測するのが早道だった。理由はよく分からない。整然たる紙の記録より、作業員が大声で伝える実測値を信ずる。2017年12月11日

